

まちのくすりやさん 第60号

今回のおはなし

「てんかん、正しく知ろう」
「ザ・タバコ」
「配合剤（合剤）」



てんかん、正しく知ろう

国内のてんかん患者は、100万人に達するといわれ、珍しくない病気です。脳の神経細胞が突然乱れ、一部が過剰に活動してしまうのがてんかん発作で、繰り返し起こります。発作は乳幼児が多いため、子どもに多い病気と思われがちですが、最近では、65歳以上の高齢の方も多いです。

子どもの場合は、出生時の脳の損傷などが原因になります。大人では、交通事故などによる例もあり、高齢者は、脳血管障害やけがなどの原因が多いです。

発作の頻度やけいれんの起こり方も様々です。「意識を失って急に倒れてガタガタ体がけいれんする」というのが一般的なイメージですが、これは症状の一部にすぎません。意識がぼやけるだけの場合もあります。また、「自動症」といわれる症状が表れる患者もいます。無意識のうちに、歩いてドアを開けて室内に入る、といった動作などが表れます。他人の家に入り込んでしまったため、警察沙汰になったこともあるといいます。

治療では、まず薬で発作が起こることを防ぎます。神経の過剰な活動を抑えたり、活動が他の神経に伝わらないようにしたりします。病気の細かなタイプを考慮し、医師と相談の上で自分に合ったものを選びます。薬の種類は、2000年以降増えています。従来は、副作用は眠気などを催すケースもありましたが、最近の薬では、副作用の心配も減ってきました。患者のうち、薬で発作を抑えることができるのは、7~8割といわれています。

残りの2~3割が「難治性」といわれますが、このタイプでも、治療の選択肢が増えていきます。最近では、手術が特に効果的な症例もわかってきました。

てんかんを正しく知るQ&A

Q1：いつ発作が起きるかわからない病気ですか？

A：7~8割の発作は薬で抑えられます。発作がなくなれば少しずつ薬を減らします。日常生活を問題なく送れる人も多いです。

Q2：けいれんを起こした人には、口の中にタオルなどを入れ、舌をかまないようにすべきでしょうか？

A：窒息の原因になるので、かえって危険です。体をぶつけないように周囲のものをどかし、経過観察を。発作が10分以上続く場合は、救急車を呼びます。

Q3：患者は車を運転できるのでしょうか？

A：薬などで2年以上発作が起きていないなどの条件を満たせば、運転免許を取れます。

ザ・タバコ

浦安市内で禁煙治療ができる医療機関（平成24年2月1日現在）

禁煙治療に公的医療保険が適用されます。ニコチン依存度が低い場合、保険対象にならない場合がありますので、詳しくは、直接医療機関へお問い合わせください。

新浦安虎の門クリニック	電話：047-381-2088
ベイシティクリニック	電話：047-381-2738
新浦安駅前コシノ内科	電話：047-711-1061
落合クリニック	電話：047-351-4563
順天堂大学医学部附属浦安病院	電話：047-353-3111
浦安サンクリニック	電話：047-380-5677
神谷内科クリニック	電話：047-305-0127
せきぐちクリニック	電話：047-306-3557
くまがわクリニック	電話：047-306-2881
太田の里クリニック	電話：047-304-1000

浦安市ホームページより

配合剤（合剤）とは？

配合剤（合剤）とは、主成分を複数含んだ薬剤です。多くの市販薬が配合剤であり、医師から処方される薬にも取り入れられています。

例1：同じ薬効同士の配合

- ・高血圧の薬＋高血圧の薬
- ・糖尿病の薬＋糖尿病の薬

例2：違う薬効の物が配合されている場合

- ・高血圧の薬＋高コレステロールの薬
- ・吸入ステロイド剤＋吸入気管支拡張剤

※顆粒やシロップなど、いろいろな剤型があります。



（社）浦安市薬剤師会 〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス toiawase@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>

「まちのくすりやさん」に関するご意見ご要望をお寄せ下さい。お待ちしております。